

虹いろ

No 8



リレー題字：藤原大輔さん 絵：功刀美知江さん

特集

- ◆ 日野春フリッジスクール構想
- ◆ ちょっと違うな！記念式典
- ◆ 星の里夏まつり
- ◆ 女取の泉
- ◆ その他

年初のご挨拶に代えて

「農」と「食」と「美」を架け橋に、地域の課題を皆で学び合い、力合わせて改善する、「日野春ブリッジスクール構想」について～序～

八ヶ岳名水会事務局長 窪川 敦之

当法人が山梨県峡北地域にて活動を開始して早20年。障がい者が地域の中であたりまえに暮らしていける社会の実現を目指して活動を展開し、この間に法的整備も確かに進んできた。しかし、現在も真の意味で一人ひとりが主体者となれているとは言い難く、受け止める仕組みの無い発達障がい者や触法者等の社会的な弱者に関しては、未だ救済への道程が見出せない。

一方、法人が立脚する地域社会に目を向けたとき、そこには少子高齢化に

より跡継ぎを失った農地の荒廃と、産業流失による雇用喪失という現実がある。社会的弱者を受け止めるべき共生社会の理想は、今その基盤から失われようとしている。

このままでは枯れた地域と肥大化した施設しか残らない、あと10年すると受け継がれてきた文化も意思も途絶えてしまう。そのような危機感を抱えつつ、同時にこの10年が勝負だという強い使命感を抱いていた。

そんな折、北杜市から日野春小学校跡地をお借りできることが決まったことはまさしく天啓であった。日野春は当法人が運営する通所の「春の陽」や「菜の花」と隣接し、この20年の取り組み実績と地域の方々からの暖かいご支援を引き継いで活かし、縦横に連携させるために打って付けの好位置にある。さらに新たな協力者を引きつける自然や文化などステージとしての魅力、例えば都心から約2時間とアクセスも良く、周囲を二千m～三千m級の



貸与された旧日野春小学校校舎

山々に囲まれて、水、土、空気共に清く澄み渡り、眺望は一幅の絵といえる程風光明媚な地であることや古くから、この地の魅力を知る人々があらゆる表現活動の舞台としており、戦前、戦中、戦後を通して、アララギ派、白樺派をはじめとする先人が幾重にもそ

の下地を作り、その歴史が現代へと受け継がれていること等々、枚挙にいとまがない。我々の中に、「この好機を活かさない手はない。」という思いが自然と沸き立ち、構想は縦横に膨らんでい



何気ない風景も一幅の絵のようです。

った。

まず、生きるための原点である「農」と「食」。事業開始以来取り組んできた有機無農薬栽培を継続発展させて循環型農業を確立するとともに、それを広く提供できる加工や流通に道筋をつけること。その活動を通して、参加する一人ひとりがそれぞれの強みを生かして活躍できる仕事の間を作る。外部の知恵や資源も活かして「人材Ⅱ人財」を育て、社会参加の道も拓くこと。さらに、この地の自然や文化的な資源も余すところ無く活かし、「美」と融合させて昇華することで、人々が例え遠方からでも繰り返し訪れたくなるような魅力溢れる場所とすること、等々。そうした今回の構想全体を『地域の課題を「農」と「食」と「美」を架け橋に、皆で学び合い力合わせて改善（解決）する日野春ブリッジスクール構想』と銘打ち、様々な「ひと」や「もの」や「こころ」の間に架け橋（ブリッジ）を創造し、廃校となった日野春小学校

（スクール人々が集い育つ場所）の跡地「日野春」をその拠点として展開して地域再生の端緒としたいと考えている。

夢の実現へ向けた取り組みは今まさに始まったばかりである。今後も様々な機会を捉えて皆様に経過をご報告していきたい。皆様に支えられ育てていただいた当法人の取り組みに、この夢の実現に、変わらぬご支援を賜ることが叶いますようお願い申し上げます。



旧日野春小学校体育館

昨年の十月二十六日土曜日
ハケ岳名水会創立二十
周年式典が開かれまし
た。



ハケ岳名水会

創立二十周年式典を終えて：

ちよつと違うな！ 記念式典

ハケ岳名水会監事 手塚邦彦

「明日は、大丈夫かな！創立二十周年式典のお祝いが台風とは！花火くらいにしてくれればいいのに！」と思っていました。

十月二十六日、朝、強い雨だったので「準備してきた人たちは、ずいぶん悩んだろうな、運動会なら中止だ」と考えながらも日野春小まで来たら、ザンザン降りの雨の中、信号のところにもグラウンドの入り口にもカッパを着て誘導している人たちがたくさん見えました。雨だって台風だって、式典はや

りぬくぞという姿を見せてもらいました。

体育館のパネルは名水会の歴史が資料と写真でセットされていて、名水会が脱皮しながら成長していく様子が思い返され、パネルには解説者と説明者が必要だと思いました。一枚の写真にどれだけの思いと汗が込められているか引き継いでいくことはさらなる名水会を創ることだと思いました。はじめの頃は、資金が足りなくても理想と夢を追って利用者さんにとつて必要だと思える備品や施設など自分たちで作っていました。今関さんに会ったときは職人さんだと思っていました。皆さんが時間を忘れるほどに熱く取り組む姿に感銘を受けていました。

記念式典も高い雛壇からの話ではなく施設長の言葉にあった「誰もが同じ目線で向き合える場」でした。普通の記念式典とはちよつと違うな！より、大きく違うなと感じたのは私だけではありませんでした。「共に暮らす地域の創造と実現」の理念が具体化されていました。理事長の話は名水会を振り返らせてくれたし、施設長は語った後に利用者さんと職員全員で「ありがとうございます。よろしくお願いします。」

と言いました。この一体感は何だ！これは式典という儀式ではなく、みんなで作りに上げてきた生活の場をもっと豊かにするための出発式だと思いました。アトラクションは理事会があつたので見られなくて残念！昼食はほうとう、おもち、すしなどおいしい！ごちそうさまでした。

シンポジウムはそれぞれの立場からの発言に重みがあり触発されました。でも今、農業で食べていくことは大変です。普通のおじいさん、おばあさんでも食べていくにはどうするの？の問いは残りました。

はじめから、終わりまでこんなに充実した一日は久しぶりだと感じながら帰りました。



二十周年記念式典に参加して

私の感じたこと

＊20周年記念式典に関わる映像班の仕事として、20年間の過去の映像や写真を取りまとめて展示や映像の形にする仕事が各事業から選ばれたスタッフ14名に割り当てられ何か月も前から下準備をしてきました。

しかし過去の写真に関しては保存状態が良くなく、年代がばらばらの状態の物もあり、初期段階の準備としての年代ごと整理が大変でした。そのあと各事業から集ま

った500枚以上の膨大な量の写真をスキャナーで読み取り、その画像や今現在の映像を編集して、各事業の映像集



を完成することが出来ました。スタッフの中にはムービーメーカーやパワーポイント等編集が初めての者もいました。また、通常の業務の後、家で夜遅くまで慣れない編集作業をした者もあります。展示物等の仕事で毎日遅くまで作業していた者もいました。みんなの力が集まった名水会らしい作品ができました。今回の経験を生かして、次の記念式典の際にはもっと素晴らしいものができると期待しています。

映像班 事務局 鈴木直子

＊「さあ、みんなで歌おう!」、「さあ、みんなで踊ろう!」・長田さんのかげ声のもと会場全体が一気に盛り上がりを見せた。手拍子をしながら歌う人もいれば、前に出てきて踊る人もいる。とても前日まで台風の影響が心配されていたとは思えないほどの空気が体育館全体に伝わっていた。また、会場には春の陽から就労



した人や地域の方も多数参加されていた。まさにみんなが支え合い、助け合ってきたからこそ20周年という素晴らしい瞬間を迎えることができたのだと実感した。私もこの素晴らしい日に立ち会うことができたことに感謝し、今後も地域に愛され続ける法人にできるよう一層努力していきたいと感じた。

春の陽 河西 悠介

星の里夏まつり

参加者の声

去る8月4日、星の里において、毎年恒例となっている「夏まつり」を開催致しました。本欄では、参加された方からお寄せいただいた感想を紹介させていただきます。

“星の里夏まつり”涙が止まらない!!?

保護者 奥山 茂樹

弟（昭二）が名水会の事業所を利用して頂いて15年目になりますが、今年は特に厳しい夏がやってきました。東京では毎日うだるような日々が続いていましたが、小淵沢駅に着く頃には、暑さは少し和らぐ感じがしました。保護者会では模擬店で「焼きそば」を出します、その仕込みからの開始です。私は材料の玉ネギの皮むきをしました、涙がどうしても止まらず苦労しました。いよいよ「焼きそば」を焼くのですが、鉄板や薪等はスタッフの方に事前に設定して頂いていましたので焼くだけです、名人のOさんがいなくて要領よく出来上がりません

でした。

一回分の材料を鉄板に乗せて焼き、パックに詰める。このサイクルを数十回繰り返しての作業ですので、時間ばかりりましたが、祭りの中程には予定数を完成することができました。

日頃あまり体験できる機会がありませんので、また来年も参加してみたいと思いました。

職員一人ひとりに感謝

「星の里」保護者会 青木 敬明

開設二十周年おめでとうございます。今年の「星の里」夏まつりは、天候にも恵まれ、例年にも増しての盛大さに、皆さん楽しまれたことと思います。特にまつりの終わりの恒例の花火大会は、今年は本数も多く、最高だったと思います。

私は、保護者会の皆様と一緒に、毎年、焼きそば作りを担当しています。暑い日中、汗だくの作業も、利用者の皆さん達が笑顔で食べているのを見ると、暑さなどなんのそのです。

私の子供は「星の里」でお世話になり、今年で十六年になります。

入所前は体が弱く、一年中病院通い

でした。ところが、「星の里」で暮らすようになってから、ほとんど病院通いがなくなりました。緑に囲まれた空気のよい環境、それより何より職員一人ひとりの温かい心配り、気配りのご苦労のおかげと、こころより感謝しております。



星の里夏祭りに参加して

「ぼーら」支援員 水野 歩

私は星の里夏祭り参加2回目になります。今年は二十周年記念ということで、例年以上に多くの方が来られたように感じました。

私は第2部からグループホーム利用者と参加させてもらいましたが、振り返ってみるとカラオケ大会では利用者さん、職員さんの普段みられない楽しそうにしている姿をみられ盛り上がり良かったと思います。

第3部ではギターアンサンブル、大柴バンドのプロのライブ、演奏会に來ていると錯覚してしまうくらいレベルの高さに驚かされました。盆踊り、ラントン太鼓では利用者さんのイキイキとした表情と踊りそしてダイナミックに太鼓をたたき姿を見てこちらもすごくテンションが上がり楽しかったです。最後は星の里夏祭り最大の目玉企画でもある打ち上げ花火です。どの花火大会にも負けない迫力もありすごく良い思い出になりました。

初めての夏祭りを終えて

「星の里」支援員 横森 紘子

新人である私にとって、星の里の夏まつりは初めてのことばかりでした。その初めてが「二十周年」という節目の年であったことを、私はとても良かったと感じています。その理由の一つに、私自身が二十周年記念映像班として、二十年ほど前の夏まつりの写真を見る機会をいただけたことが挙げられます。写真の中には、二台並べた軽トラックの上でマイクを持つ、利用者の姿がありました。今年、利用者とともにペンキ塗りをしたステージが、二十年前には存在しなかったのかと思うと、不思議な感覚でした。今現在当たり前に見ているものが、二十年前には存在していなかったという事実。二十年の軌跡に少しでも触れた上で、今年の夏祭りを利用者と楽しめたことは、良い経験になったと感じています。

たくさんのお出演者の方々の協力のもとに行われたステージを、一緒に歌い踊ることもあればじっと耳を傾けたり、思い思いに楽しむ利用者達の楽しみ方は、例年以上に幅広いものになったのではないかと思います。出店では、今

年度開店した楽一のほうとうやカレーも振舞われ、利用者が「美味しいから食べておいでよ」と来場者に勧める姿も見られました。どこか“自分達の”と誇らしげな様子で、楽一も利用者達の新たな歴史の一ページとなったのだという印象でした。

去年より今年、今年より来年、来年より再来年。そうやって積み重ねてきた“繋がり”が、私の目の前にあるのだと思います。例年より盛大な閉会の花火を見て、今年の彼らが、来年はもっと喜んでくれるように、私も私にできることを頑張っていかなければならないと、強く感じることで今年の夏まつりでした。



夜空に打ち上がる大花火

法人内研修について

本年度、法人の事業計画の重点項目として、「人材育成と研修」が掲げられており、研修プロジェクトの一員として研修に関わらせてもらいました。

職員も200名を超え、全職員が内容を理解しながら生き生きと仕事が出来、また今後の法人の仕事を担当する人材を育成する目的で研修を進めています。

法人内研修としては全体集会、新入職員研修、応急救護訓練、感染症等を開催し、法人外研修としては専門研、資格研、各種大会、講座に参加しています。

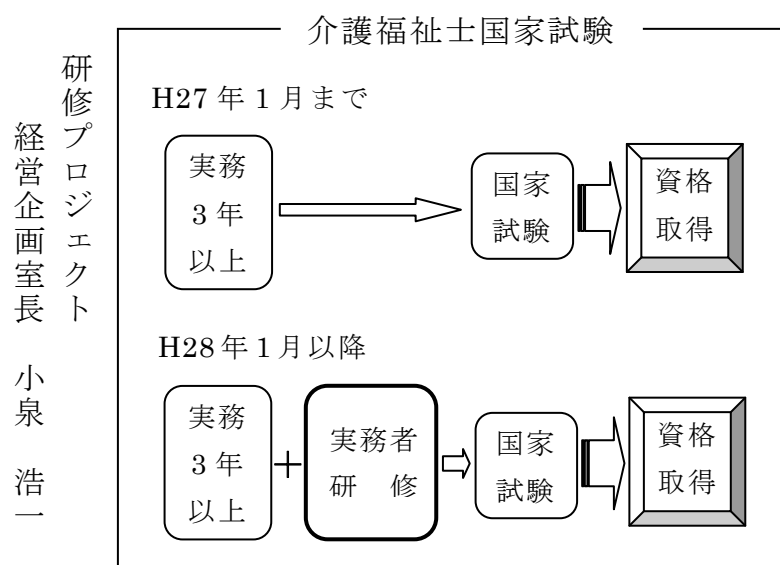
8月からは、「事業所を知ろう」というテーマで、各事業所の担当者が講師となり研修を行っています。それぞれの役割を職員が相互に理解することにつながり、発表者は、参加した職員に伝えることで自分たちの事業を再認識出来る良い機会になったと思います。

法人内には多数の事業所がありま



すが、普段は、所属の事業所を中心に業務を行っているため、職員間の交流機会が少なく、研修では、普段あまり顔を合わせない職員と、研修を通じて交流を図ることも目的としています。

今後も、職員が、取得した知識・技能等を自己能力として業務の中で発揮できるよう、研修の方法、体制の整備を行っていくと考えております。



〈介護福祉士資格について〉
平成28年1月からは、実務経験をベースとして国家試験を受ける場合、実務者研修を修了しなければならなくなります。

実務経験だけで受験できるのは、来年の試験が最後になりますので、実務経験3年を満たす方は、是非チャレンジしてみても良いでしょう。

女取の泉

『NICOR(にこり)』での生活

十月一日「障がい者総合相談支援室ふぁーすとまっぷ」が、葦崎市民交流センターNICOR 三階に開設されました。法人の相談支援部を集約し、『障がい者就業・生活支援センター陽だまり』『地域生活定着支援センター』『相談支援事業所らいむ』の三事業所が北杜市や甲府市から事務所を移し、一般相談から専門相談まで、ここに来ればすべての相談を受けることが出来る機能となっております。

ここでの生活も二ヶ月が経過し、私が所属している『障がい者就業・生活支援センター陽だまり』としては、北杜市から葦崎市に移ったことで、支援エリア内の移動距離・時間とも大分短縮されました。立地条件も良く、JR葦崎駅やハローワーク葦崎に近いと言ったところは、相談に来られる方にも相談に向うく我々にも使いやすさ満点です。

建物の構造上、窓を設けることが出

来ない事務所で、肌で季節感や時間の感覚を持てないところがちょっと残念・・・ではありますが、建物屋上やエレベーターから美しくそびえ立つ世界文化遺産「富士山」を眺めては、気分も晴れやかに。

個人的には、自宅から近くなり通勤が楽になったこと、仕事帰りの寄り道の選択肢が増えたこと、これから訪れる寒さや雪の心配がちょっとだけ軽減されること・・・等々。概ね上々なNICOR生活。

私がこの仕事について四年。その間に事務所の引っ越しが、今回で三ヶ所目。ともかくにも、ここで落ち着くことが出来ますように。

就業・生活支援センター陽だまり

秋山由美

この欄は、毎回、八ヶ岳名水会で働く職員やボランティアの方が、交替で書き綴るコーナーです。女取の泉は、長坂小荒間の森の中にある美しい泉です。



豆腐まつりを終えて

十一月十六日、毎年恒例の豆腐まつりが豆の花で行われました。当日は天気にも恵まれ、秋晴れの中たくさんのお客様も来ていただきました。

開始時間の十一時になると、豆の花の外に和太鼓やジャンベが並べられ、利用者さん達がアマナさんの歌に合わせて思い思いに太鼓を叩きながら開会となりました。

いろいろなお店も出店されていました。今年は二十周年ということで、お豆腐が一丁百円のセール価格で売られたり、カレーや星の里のほうとうや梅ジュース、くみ出し豆腐が無料でふるまわれました。他にも、星の里のからあげやフライドポテト、はるのひ農場のお米や野菜、お味噌、にじいろグループのさきおり作品やフェルトボールのオーナメント、豆の花のおからコロッケや揚げだし豆腐、豆腐ケーキ、ク

ッキーなど、みんなが日頃頑張って作っているものが販売されました。豆の花の中では、コンサートが行われました。十二時より開演。豆の花の中は超満員。たくさんの方が聞きに来てくれました。

最初はアンダルシアギターアンサンブル。その次は大正琴愛好会、と地域の方にもたくさん出演頂きました。その綺麗な音色にみんな聞き惚れていました。

その後はいつも太鼓の活動でお世話になっているゆめやえいこさんの演奏や、橋場みちこ&バンドドリーム、坂本卓也&コーリングタイムといろいろな方に出演していただき、みんな楽しんで聞いていました。最後はみんなで歌おう！のコーナーでは利用者さんがステージに上がり、好きな歌を歌いました。みんな笑顔で楽しそうに歌い、最後まで大いに盛り上がりました。

毎年この時期にこの豆腐まつりは行われていますが、地域の方々にもたく

さん来ていただき、春の陽がいかに関域の方と深く繋がり、支えられているかを感じさせられます。今後も地域の方々の繋がりを大事にして行きたいと思いました。

春の陽支援員 立川 瞳



菜の花 利用者活動作品展

第4回 みえないことづけ



今年も展示会「みえないことづけ」を開催する運びとなりました。豆の花を会場として始まった展示会も第4回となり、昨年と同様、葦崎駅前の葦崎市民交流センター「ニコリ」のギャラリースペースにて開催いたします。今年一年間、菜の花の造形活動は「動」をテーマにしてきました。その人らしさに加え、その時の心の動きが表現された作品や、遊び心満載の作品が生まれました。ぜひ、展示会場に足を運んでいただき、共感する時を楽しんでいただけたらと思います。菜の花一同でお待ちしております。

期間…平成26年2月26日（水曜日）～3月3日（月曜日）

時間…午前10時～午後3時

場所…葦崎市民交流センター NICO RI（ニコリ）

1階市民ギャラリー（葦崎駅前）

お問い合わせ…ハケ岳名水会 菜の花 0551・45・7501

※菜の花の受付係りは午前10時から午後3時まで滞在していますが、ニコリ開館時間内であればいつでも作品をご覧いただけます。なお、入場は無料となっております。

一生懸命生きてほしい
たとえ苦しくても
つらくても
君にもわかてほしい
生きてることは
わるいことなんかじゃない
そういうこと
楽しいこともあるでしょ
だから
生きていいんだよ



星の里利用者 吉田沙緒里さんの詩（直筆）

ありがとうございました！

○題字を書いてくださった方

菜の花利用者 **藤原 大輔さん**

○表紙絵を描いてくださった方

星の里利用者 **功刀 美知江さん**

素敵な字と絵をありがとうございます！

援農ボランティア募集

春の陽農場では、草取り・草刈・田植え・収穫などの援農ボランティアを毎年募集しています。

連絡先 **0551(32) 7373**

春の陽職員 **関根まで**

お知らせ

○春の陽・菜の花・生活支援センター陽だまりの事務所が、旧北杜市立日野春小学校に移転しました。

住所 **〒408-0025**

北杜市長坂町長坂下条1237-3

電話番号・ファクス共変更なし

○菜の花の支援現場に電話が新設されました。

Tel 0551-45-7501

Fax 0551-45-7502

編集後記

今年もよろしくお願いいたします。20周年記念誌の編集など、諸事のために8号を送り出すのが、年初になってしまいました。八というのは末広がりの縁起のよい数なので、これはこれで年の初めには良いかと当方勝手に思っています。さて、20周年記念式典が終わりました。当日は、台風到来の風雨の中、沢山の方が御祝いに駆けつけてくださいました。本当にありがとうございます。今回、記念誌の編集に携わり、実に多くの方々の善意と努力によって、この八ヶ岳名水会の20年があることを改めて知りました。「人と夢とを繋ぐ希望の架け橋」となってくださいていることを実感させられました。感謝です。記念誌にはこうした善意や努力の全てを載せることはできませんでしたが、20年の歩みと出来事の多くを写し入れました。どうか沢山の方がご覧くださいれば幸いです。

記念式典当日、私も、合羽を着て交通整理と駐車場係をさせていただきました。係を一緒にした甲斐高校のボランティア学生さん達、ありがとうございます。

⊙

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL

<http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

廣瀬政光 山口和江 (以上菜の花) 坂本ます子 相吉謙輔 (以上星の里)

立川 瞳 河西悠介 (以上春の陽) 清水めぐみ 中村和稔 (以上陽だまり)

坂本むつみ 鈴木直子 (以上事務局)

